

リハビリ+ステーション LETs 倶楽部

リハコンテンツ株式会社
代表取締役

山下哲司



CLICK!!

リハコンテンツ
ホームページへ

全国に展開し始めた、まったく新しいコンセプトを持つ「リハビリステーション レッツ倶楽部」。仕掛けた男は熱い情熱を身にまとった、まさに伝道師と呼ぶにふさわしかった。

リハビリ型
デザイナー
サービスの
伝道師

リハビリ型デイサービスとは？

シニアフィットネスの要素を取り入れ、リハビリに特化した新しいスタイルの通所介護（デイサービス）です。主に支援1から要介護5の方が、介護保険を使ってリハビリ専門の機器とプログラムを利用しながら、運動機能の回復を目指してリハビリ運動を実施しています。

介護や補助が必要なご利用者様にとって、ひとつの運動でも動作でも、ご自身で行えるようになること、そしてご自身の仕事や生活を楽しめるようになることが目標です。

「外出や寝たきりの不安」をお持ちの、ご自身やご家族のために「自立した生活と自信の回復」を実現するために、生活機能の改善に必要な動作性（身体の動きやすさ）、精神性（自信ややる気などの意欲）を「楽しく、楽に」向上させる要素が盛り込まれた「パワーリハビリテーション」を導入しています。



LET'S倶楽部の展開と自分のリハビリ人生

— 初めに、リハコンテンツが行っている業務内容について教えてください。

山下社長：リハコンテンツは、リハビリ型デイサービスにとことんこだわって、全国に普及させていきたいということを目的にした会社です。

現在、脳血管疾患の方を初めとする要介護・要支援の方々は全国で500万人を超えていらっしゃいます。2025年に向かって、高齢者の増加とともに要支援・要介護の方々はますます増えていきますが、そういう方々に『寝たきりになることなく、自立した生活を続けながら、人生を全うしていただきたい』という想いでこの事業に取り組んでいます。

病院でしっかりリハビリができる急性期・回復期が終わった方はたくさんいらっしゃいますが、その後もリハビリが必要なケースも多いのです。ですが、その後の維持期の方々が継続的にリハビリできる施設が日本は本当に少ないんですね。そこでデイサービスという送迎があつてどなたでも使いやすく通いやすい環境でリハビリを継続していただくサービスを全国に普及して、『寝たきり率世界ナンバー1』という日本の汚名を返上すべく……『ハッピーな長寿大国ナンバー1』を実現するために、人生の先輩である方々に、身近なリハビリの機会を提供したいと思っています。そのため、私たちは自らもLET'S倶楽部という直営店の多店舗展開を進めております。ですが、さらにフランチャイズという形で、志を同じくしていただけの経営者の方々に参入をしていただき、共に日本全国の方々にリハビリの環境をお届けしたいという想いで事業をやらせていただいています。



——山下社長はもとも介護を学んでいた方ではないんですね。どういう経緯・想いで今の仕事に就いたんですか？

山下社長…じつは、私自身もいろんな意味でリハビリを続けてきた人生なんですよ(笑)。私は小さい頃、プロ野球選手になりたいと思ってずっと野球を続けてきたんですけど、高校時代、しょっちゅう怪我をしていました。体力をつけているんなら練習をしていけば、当然ながらスキルが上がりますが、そんな時に怪我をすると一瞬にしてパフォーマンスが得られなくなって、またリハビリをして復活をしていかなきゃいけない。その都度、プライドが叩き壊されるような悔しい経験も、何度もありました。そして傷ついた気持ちを乗り越えて「リハビリを続けて復活していくぞ」というその気持ちが、ご利用者さんのみなさんとも同じ気持ちなんだということに、あるとき気づきました。

ある日突然脳卒中になって、命こそは取り留めたものの今までと同じような生活ができなくなってしまう、すごく傷ついてらったり絶望されていたりする。その想いに近い想いを自分も経験をしてきたので、「本当に悔しいお気持ちで今、生活されてるんだろっ」と考えたときに心に火がついたのを覚えています。『少しでも、この事業を通じて貢献させていただけよう』と、そう感じたんですね。

もう一つは、私自身、若い時に独立をして事業を立ち上げたことがあるんですけども、うまくいかず3年で会社を閉めてしまいました。その後、決して逃げることなく、迷惑をかけた方々に報いるために、メインの仕入先さんに3年間お礼奉公をさせてもらって、営業成績を上げて、ご迷惑かけた分以上に収益貢献をさせていただきました。また金融機関からお金を借りていましたので、それを10年かけて分割返済してきた経験があるんですね。それが、まさに経済的というか、ビジネスの上でのリハビリになっていました。野球を通じてのリハビリ、ビジネスを通じてのリハビリをずっと続けてきて、他の方よりも患者さんの気持ちが理解できているように感じています。そして、リハビリを必要としている方々に『あきらめることなくリハビリを続けていただきたい』と心の底から思えることが、介護業界の仕事を選択した大きなきっかけになっていると思います。

——波乱万丈ですね。

山下社長…そうですね(笑)。マクドナルドのレイクロックさんは52歳で起業されましたが、私は若い頃に事業を通じて苦労しましたので「もう独立なんか絶対しない!」と思っていました。しかし現在のビジネスモデルに出会って介護の現場や、リハビリにお困りの方が多く現実を知れば知るほど、『これこそ普及をさせていきたいビジネスだ。自分自身も人生をかけて取り組んでいきたいし、他の経営者の方々にも協力して頂きたい』という思いが抑えられなくなり、妻には大反対されましたけど、ここまで突き進んできました(笑)。私自身、不動産の仕事とか建築の仕事とかフランチャイズの仕事とか、いろんなことをやってきました。ですが、マクドナルドのレイクロックさんを始め、ソフトバンクの孫

さんなどは、実はもともとやって
いた仕事と違う、アウトサイダー
から入ってきた起業家だったんだ
と知って、そして、そんな起業家の
方々が実は非常に多いこと知って
踏み込む決心ができました。アウ
トサイダーだから気づき、アウト
サイダーだからこそ全く別の分野
の方々にもキチッと事業内容をお
伝えできたり、今の介護業界の常
識にとらわれずに、究極のサービ
ス業として提供できるんじゃない
かと事業を始めたあと実感し
ています。

業界の革命児になる。

介護業界に革命を起こそうとしているんですね。

山下社長：当社の事業所には坂本龍馬先生のポスター
が貼ってあるんですが、たまたまドラマ「龍馬伝」が放
送されている時に、フランチャイズ第一号店が高知市と
土佐市に同時にスタートしたんです。なので、私も改め
て司馬遼太郎先生の「龍馬が行く」を読みました。そし
て、「自分がこうありたい・こうなりたい」という個人の
枠組みではなく、「これからの日本はこのままじゃいけ
ない」という広い視野で日本国内を奔走され、命をかけ
て明治維新という革命を起こされた龍馬先生の生き
様を感じて、私もそっという生き方ができたら本望だな
と改めて思っ、このポスターを貼ったんです。




——なるほど。では、続いて具体的なサービスについても伺っていきます。LETS倶楽部で提供しているサービスの大きな特徴はなんでしょうか？

山下社長・・・まず、体操に関しては、太極拳やストレッチ、あるいは口の周りをちゃんと動かせるようにする口腔体操とか、いろんなものを取り入れています。ですが、体操はすごく個人差が出てきます。「みなさん手を挙げてください」と言っても、どのくらいの位置まで手を挙げられるかは人それぞれで、体操で運動機能を回復させるには、すごく個人差が出てしまうんですね。ですので、LETS倶楽部では、体操もやっていたきながら、リハビリのメインプログラムとしてメディカルマシンを使って生活動作【立つ】【座る】【歩く】の改善ができるパワーリハビリテーションを行っていたことにこだわっています。

——メインのサービスに、パワーリハビリテーションを選択した理由はなんですか？

山下社長・・・そもそも、私はリハビリの専門職でも医療従事者ではありませんから、サービス業としてしっかりと成果の上がるプログラムをご提供するには、専門家の方々の知識が具体化された仕組みが必要でした。そして、生活動作の基本は座る・立つ・歩くですから、逆に言えば、座る・立つ・歩くがしっかりとできるようになれば、生活のクオリティはグッと上がるということに気づきました。そこで、それらの機能回復に必要な種目をの種目を満たせ、専門家の方々の知識の結晶でもあるパワーリハビリテーションを導入することが適切だと判断したんです。





ちなみに、日本国内の多くのドクターの先生方がこのリハビリのプログラムに賛同されていて、毎年パワーリハビリテーション学会というのが開かれているほど、医学的なエビデンスが豊富な信頼性の高いリハビリのプログラムなんです。

—— **実際、利用者さんからの声はどのように返ってきていますか？**

山下社長：パワーリハビリテーションは座った状態ですべての運動ができますから、どなたにもできます。ですので、「私にもできた！」ととても感激していただけて、それを続けていただくことで「非常に体を動かしやすくなった！」などと言っていたことが多くですね。たとえば、痺で手が全然動かなかった方が、リハビリを続けた結果3カ月後には握力が5kg、6カ月後には握力が10kgに戻ってきたと、喜んでくださったりしています。

ご利用様は要介護の認定を持つ方なので私たちのように自ら運動をするということがなかなか難しいんですね。でも、マシンに乗ってしまえば、マシンの軌道を正しく繰り返すことにより正しい運動を繰り返すことができるので、「動かなかった部分が動いている！」という成功体験で、非常にモチベーションが上がります。要支援・要介護の方の中には、自宅に引きこもってしまい、人に触れることが少なくなっている方が非常に多いんです。ですが、施設でマシンを使っていると、私たちがや他の利用者さんが見てくれたり、「コミュニケーションをとったりすることで気持ちが明るくなるので、「ここに来るのが楽しみでここ来るとコンディションを整えられる」

とおっしゃってくださいる方も多いですね。

——ご利用者の中には同じような悩みを抱えている方もいるでしょうし、一緒に頑張れる仲間ができるというのも、この環境ならではの良さですよ。

山下社長…まさにそうですね。要支援1・2という比較的症状の軽い方から、要介護3・4の重度の方までいらっしやいますから、抱えている障害や麻痺もみなさんバラバラなんです。ですけど、1つ共通しているのは「意欲」なんですね。意欲を持って通って頂いている方々なので、私たちは普通のデイサービスのようにな「みなさん、一緒に楽しいことをしましょう」というレクリエーションはやっていないんです。そういう強制的なコミュニケーションはとっていないんですけど、自然なコミュニケーションは生まれしていく。とくに男性の方は気の合う方がいれば共通の話題でお話することをお勧めします。自分の考えを無視して「これをやりましょう！」と言われても「そんなのやりたくない」と思ってしまいます。でも、うちではそういうことを強制されることはなく、気の合う方がいれば話をすればいいし、1人で新聞を読みながらマシンの順番を待つなんてことも自由に行うことができるし、構えることなく自然体で

来ただけなんです。だから、男性の利用者さんも多いですよ。女性の利用者さんの中には、「やみなさんに見られるので…」ということ、最初は髪がボサボサだったのがちゃんとして、美容院に行って髪を綺麗にされて、お化粧品もして、毎回洋服を変えてくる…なんて方もいらっしやいますね。男性も、かっこいいTシャツを着てこられるようになったりして、だんだんと容姿や行動が変わってくるんですね。そういう良い兆しのことを行動変容と呼ぶんですが、ただ運動機能が回復するだけじゃなく、心持ちが変わるといいます。外出するという「良い緊張感」をみなさんに感じ続けていただいているという点も、リハビリコンテンツが行っている「LET'S倶楽部」の大きな特徴じゃないかなと思います。



14

——社長自身も人生の先輩である利用者さんとは気軽に話されたりするんですか？

山下社長・・・はい。「社長、今「ETS」倶楽部何店舗になったの？」と話しかけてもらえたりとか、たまに最近引っ越しをしたんですけど、近所の利用者さんのお家にご挨拶に伺った時に「家ができて良かったねー」って言うてもらえたりとか、みなさんよくお話してくださいます。時には「もっとこういう風にしたら、利用者さんに喜んでもらえると思うよー」なんてアドバイスをいただくこともあります。

——山下社長がこの仕事をしていてやりがいを感じる時はどんな時ですか？

山下社長・・・直営店の利用者さんとの触れ合い、お話させていただいたり、加盟店さんを訪れてそこに通っている利用者さんと接した時に、「お役にたてている・・・」と、一番喜びを感じます。今は全国を飛び歩いてて機会が少ないんですけど・・・。利用者さんが明るくなられたり、「ここにこういう施設ができてよかったー」って言うっていただける時がやっぱり一番嬉しいですよ。そういう会話があると、ますます日本全国にこの施設を広げていきたいと強く思いますね。また私たちスタッフも、直営店で従事しているスタッフも、フランチャイズに従事しているスタッフも、みんなが同じように「喜ばれる仕事をさせていただいているー」という喜びを感じ、責任感や自信を持って仕事ができることの喜びを日々感じています。

ご利用者の皆様、スタッフの皆様が同じ方向を向いている。

——良いいいことをして「ありがとう」と言ってもらえることの素晴らしい魅力だと。

山下社長・・・はい。利益を上げること企業を継続させていくにはとても大事なことなんですけど、やっぱりそれだけではモチベーションが続かないですよ。それに、数字のプレッシャーや負荷がかかった状態で仕事をしていくよりは、切実にリハビリができる場所がなくて困っている方々に来て、喜んでいただき、実際ご利用者さん達が、時に明るくなったり体に力が入るようだったりすることを間近に見ながら仕事できることはやりがいを感じるものです。利用者さんご本人はもちろん、それを支えているご家族の負担も軽減されていくという、WinWinの形でサービスが提供できていることは、事業をいつまでも続けていきたいというモチベーションになりますよね。フランチャイズの加盟店さんの方々に対する想いも一緒です。喜びと、売り上げや利益が一体化しているということは、本当に素晴らしいですね。ですから、加盟店さんのみなさんがうまくいくために私たちも真剣にサポートしています。そして事業がうまくいっている加盟店さんには常に祝福をお伝えしていきたいと思っています。

—— スタッフさんを始め、関わっているみなさんが熱意を持った方々だからこそ組織として上手く成り立っているんですね。

山下社長…そうですね。1人でも思いが欠けるとそうはいかないと思うんですね。我々もスタッフもそうですし、直営店で働いているスタッフ、そこに利用者さんを紹介していただいているケアマネージャーさん、共感して来ていただいている利用者さん、利用者さんを支えている家族の方、想いを同じくして事業をやっていたいただいている加盟店さん、加盟店さんで働いているスタッフさん、加盟店さんの地域のケアマネージャーさん、ご利用者さん、ご家族の方…みなさんが同じ想いと喜びを共有できていることが大切で、そしてすべてなんだろうなと思って思います。

—— ちなみに、山下社長は周りの方にどんな方だと言われることが多いですか？

山下社長…よく「熱い方ですね！」って言われますね。暑苦しいほど熱いって(笑)。それと私どもはまだまだこれからの企業ですので、スタッフのみんなにはちゃんと休みとってねって言ってるんですけど、私自身は唯一の趣味が仕事…という感じで常に働いているような気がします(笑)。仕事をしていることがすごく楽しいですし、みなさんの思いが集約されているような仕事ができていることがありがたいですね。



——こういう社会貢献性の高いお仕事をされていることは、山下社長のご家族にとっても誇らしいことですよ。

山下社長：.. そうだと良いですね。娘がいるんですが、あまり家にいないお父さんと思われているので…(笑)。

——なるほど。これを機に熱意を持って誇りある仕事をしているということが伝わるといいですね。今後は娘さんのような若い世代(孫)が祖父母の介護をするケースも増えてくると思いますから。

山下社長：.. そうですね。本来ですと、娘さんであるお母さんとか息子さんであるお父さんが介護をされていることが多いんですけど、最近はお孫さんが祖父祖母の介護に携わっていたり、家族総出で介護をされているというお話もよく聴くようになりました。世代を超えた方々にも「デイサービスでリハビリ出来て楽しいところがあるんだ!」ということを知っていただくことも良いと思います。



ご利用者の方から贈られた作品
(この他にも多くの作品があります。)

リハコンテンツが目指す未来とは。

— 今後、リハコンテンツが目指していく目標はなんでしょうか？ —

山下社長・・・今、介護保険が使えるサービスは40種類以上もあります。よくあるのが、特定の地域でデイサービス、訪問介護、グループホーム、特別養護老人ホームもやっていますという、種類の違うたくさん

のサービスを提供されている事業者さんです。

私どもは、デイサービスの中でリハビリをキチッと提供するという

コンセプトに絞っ

て、リハビリ型デイサービスをとにかく1件でも多く日本国内に

普及していきたいと思っています。また、フランチャイズの方々がたくさん

の手を取り合って店舗を広げていくのと同時に、私たちは、その中でも1番

の見本にならなくてはいけませんので、自らも多店舗展開をしっかりとやってい

こうと考えています。将来的には公の企業になり、全国的に直営を積極的に展開し、雇

用の場も提供していきたいと思っています。そして、みんな収入はもちろんのこと、仕事場の

環境やビジョン、想いを共感しながら多くの仲間とこのプログラムを普及させていきたいと思っ

ています。クオリティとスケールの両方を常に向上させながら、リハビリ型デイサービスのナン

バー1企業として歩んでいきたいですね。

— 具体的なビジョンは見えていますか？ —

山下社長・・・私どもは、2030年までに直営店を1000店舗実現するというビジョンを持っています。同じようにフランチャイズの加盟店の方々にも合計1000店舗やっていただけたらと思っています。活動しています。このことを通じてトータルで30万人の方々にリハビリを提供できて、それに介護を支えていらっしゃる方々、100万人以上の方々に、こういう事業を通じて喜んでいただけるように邁進していきたいと思っています。たくさん笑顔を生み出していきたいです。

——では最後に、リハコンテンツが発信しているリハビリサービスにまだ触れたことのない方々に、一言お願いします。

山下社長・・・今、デイサービスは全国に27000カ所あるんですが、そのうち私たちと同じようにリハビリをコンセプトとして事業をされているところは本当に少ないんですね。ですが、少しずつそういう施設が増えていきます。ですので、急性期・回復期の病院でしっかりリハビリが受けられる期間が終わった方々、在宅に戻ってなかなかリハビリを続けられない方々には、ぜひ担当のケアマネージャーさんのお力をお借りして、介護保険が使って本格的なリハビリができるデイサービスやデイケアといったところを積極的に地域で探してみしてほしいと思います。「介護施設には行きたくない！」ではなくて、介護保険の使えるところでも、しっかりとリハビリができる「シニアフィットネス」のようなところがあるんだということを1人でも多くの方に知っていただきたい。そして、当然ながら私たちもそういう方々に向けて「デイサービスでもしっかりリハビリできるところがあるんですよ」ということをもっともっと伝えるための活動を続けていきます。また、経営者の方で「こういう事業があるんだったらトライしてみたい」という方々は、手を取り合って、リハビリできる施設を求めている方々のために、少しでも多くの地域にリハビリ型デイサービスをお届けしていきたいと思えます。

